

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.183 2012.11.1



10月20日～29日まで、松本市を主会場に長野技能五輪・アビリンピック2012が開催されました。それを記念し、松本市立博物館では特別展「ラジオの不思議」を開催しています。

写真は、関連事業として実施した講座「モノづくりの楽しさ—ラジオを作ってみよう!—」の様子です。



## もくじ

- 企画展紹介 ◇ 長野県立歴史館・松本市立博物館連携企画展「縄文の美と力」開催に向けて  
縄文土器のはなし ..... 2-3  
ガイドコーナーはんでんぼく ..... 4

# 長野県立歴史館・松本市立博物館連携企画展「縄文の美と力」開催に向けて 縄文土器のはなし

## 1 土器とは何か

粘土は、水でこねると柔らかく、乾燥すると堅くなり、さらに一定の温度以上で熱すると元に戻らなくなる性質があります。この化学変化を利用したものが、土器・陶器などのいわゆるやきものです。このうち、焼成温度が600～900度で、野焼きで焼かれるものが土器です。

土器の発明は、「人類が物質の化学的変化を利用した最初のできごと」と捉えられています。土器を使い始めたことで人類は、それまでの生食や火にかけて“焼く”調理法に加えて、新たに“煮炊き”する調理方法を獲得しました。

この結果、人びとはそれまでは食べることが難しかったドングリ・トチなどの堅果類、山菜などの植物類を食べることができるようになり、食材の幅が大きく広がりました。

また、煮炊きして食材を柔らかくできるようになり、幼児・高齢者の食の環境が向上したほか、食材が加熱殺菌されることで食中毒や感染症の防止につながりました。このように、土器の発明は人びとの平均寿命の延伸や人口増加に影響を及ぼす、大きな意味をもっていたといえるでしょう。

## 2 縄文時代と縄文土器

日本では、土器と弓矢の出現などをもって縄文時代とし、それまでの旧石器時代と区分します。現在までに知られている日本列島最古の土器は、青森県大平山元I遺跡おおひらやまもとから出土したもので、放射性炭素による年代測定で約16,500年前とされ、世界最古級の土器として有名です。

縄文時代は約16,500年前から約3,000年前までの長期にわたって続き、その間は草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区分されています。

一般に縄文時代は、草創期～前期を通して集落の定住化が進み、中期には遺跡数や集落の規模が飛躍的に増大しましたが、後・晩期になると遺跡の数は激減しています。人びとは狩猟・漁撈りゅうと採集活動を生業の中心に置き、数軒から十数軒の堅穴式住居からなる集落を営んでいました。

その後、縄文時代から水稻耕作や金属製品の使用に基盤を置く弥生時代に変わりますが、この間の時代に使われた土器が縄文土器ということになります。

ちなみに、縄文土器の「縄文」は、土器の表面に縄目文様なわめがついているものがあることから名づけられたものです。明治時代のはじめに東京の大森

貝塚の発掘調査をしたエドワード・S・モースが報告書『Shell Mounds of Omori』（1879年）の中で“cord marked pottery”と呼んだことに始まる用語です。

## 3 縄文土器の見方

考古学の研究者は、発掘調査で出土した縄文土器の形や文様のつけ方・組み合わせを詳細に観察します。そして、一見個性にあふれてみえる土器群に共通する点を見出して、「藤内式」とうない、「曾利式」そりなどの名前（型式）をつけ、土器の年代的な変化（編年）や、一定の範囲に共通の土器が使用されていたこと（地域性）を明らかにしてきました。

研究者にとって縄文土器は、時代の長さを知るモノサシであり、歴史事象を解き明かす資料として、ずっと追いかけてきた研究資料です。

一方、縄文土器を学術研究の視点ではなく、芸術的な視点でみる考えもあります。研究者のように縄文土器に共通する要素に注目するのではなく、個々の土器の造形美や表現性に着目して、縄文人の感性や時代の力強さを美学や哲学的に捉えようとする見方です。

このような縄文土器を芸術としてみる視点のはじまりは、昭和27年に芸術家の岡本太郎が美術雑誌『みずゑ』で「縄文土器論」を発表したときからで、現在まで続く縄文ブームの先駆けになりました。

## 4 「縄文の美と力」展

今秋、市立博物館では長野県立歴史館との連携企画として、「縄文の美と力」展を開催します。

中部高地に位置する長野県は、縄文時代の遺跡が多いことで知られています。特に、今から約5千～4千年前の中期は、集落が最も発達し、遺跡の数もピークに達した時期です。なかでも石器の素材となる黒曜石の原産地を抱え、豊かな自然環境に恵まれた八ヶ岳山麓周辺は、「縄文王国」といわれるほど多くの遺跡がみつかっています。

縄文時代の最盛期ともいべき中期の縄文人たちは、時代を反映した力強さにあふれ、造形的にも優れた多くの土器を生みだしました。本展ではこれらの縄文土器をテーマに、八ヶ岳山麓周辺と中信地区の縄文時代中期の土器の優品を一堂に展示します。

本展は、県立歴史館の「縄文土器展」の「前期展



「一八ヶ岳山麓の名作」(会期：9月15日(土)～11月4日(日))をベースに松本に巡回するものです。松本市内から出土した縄文土器10点を新たに加えた約50点の縄文土器を、土器の文様や器形・大きさの違いなどに着目しながら分類し、ご覧いただく予定です。



すいえんちんとって  
水煙文把手が付く土器／富士見町 曾利遺跡  
所蔵：井戸尻考古館

## 5 おわりに

遺跡から出土する縄文土器はほとんどが破片で、それ自体では何も語ろうとしない沈黙資料です。考古学の研究者は、たくさんの土器破片を集め、観察し、調査研究を重ねながら、縄文土器から歴史の真実を語らせようとしています。

本展では、完形または、ほぼ完形に復元された縄文土器を展示することにより、研究者でなくても、市民一人ひとりが縄文土器と対面できる場を創出いたします。この秋は、縄文土器と対話することを通して、土器作りの伝統と革新、縄文土器の時代を超えた美しさや力強さに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

(市立博物館 課長補佐 / 関沢 聡)

平成24年度

長野県立歴史館・松本市立博物館連携企画展 **縄文の美と力**

11月17日(土)～平成25年1月6日(日)

### 関連事業 ①

講演会「縄文土器大量出土のナゾ」

[日 時] 12月1日(土) 午前10時30分～正午

[会 場] 松本市立博物館 2階講堂

[講 師] 小林康男氏(塩尻市立平出博物館館長)

[参加料] 200円

### 関連事業 ②

松本まると博物館施設間連携事業「施文の美～太古の芸術、縄文土器」

[会 期] 10月6日(土)～12月9日(日)

[会 場] 松本市立考古博物館 ※11月中は月曜休館、12月は土日のみ開館



ついで  
顔が付く釣手土器／伊那市 御殿場遺跡  
所蔵：伊那市創造館



たるがた  
樽形の土器／茅野市 長峯遺跡  
所蔵：尖石縄文考古館



大形の土器／松本市 小池遺跡  
所蔵：松本市立考古博物館

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

長野県立歴史館・松本市立博物館連携企画展  
「縄文の美と力」

会期 11月17日(土)  
～平成25年1月6日(日)  
※12月29日(土)～1月3日(木)は休館  
会場 市立博物館 2階特別展示室  
観覧料 大人300円、小人100円(常設展を観覧の場合は別途観覧料が必要)

「縄文の美と力」関連事業

バス見学会「縄文土器を巡る」

市立博物館、考古博物館、塩尻市立平出博物館、朝日村歴史民俗資料館など、縄文土器が展示されている博物館施設を巡ります。

日時 11月23日(金・祝)  
午前9時～午後4時頃  
参加料 700円  
申込み 11月12日(月)から電話で市立博物館へ

「縄文の美と力」関連事業

講演会「縄文土器大量出土のナゾ」

日時 12月1日(土)  
午前10時30分～正午  
会場 市立博物館 2階講堂  
講師 小林康男氏(塩尻市立平出博物館館長)  
参加料 200円

学都松本・博物館

第13回 学芸員松本モノ語り

日時 12月8日(土)  
午前10時30分～正午  
会場 市立博物館 2階講堂  
テーマ 馬場家住宅の魅力  
語り手 門野博之(馬場家住宅)  
参加料 200円

年中行事シリーズ「冬至かぼちゃサービス」

日時 12月21日(金)  
午前10時30分～無くなり次第終了  
会場 博物館ロビー

松本民芸館から ☎0263-33-1569

松本民芸館開館50周年記念  
企画展「沖縄に咲いた民芸」

民芸の宝島と言われる沖縄。大胆な絵付けに代表される陶磁器、型絵染の紅型やティサージなどの布、明るくユーモラスで異国情緒あふれる沖縄張子など多数展示します。

会期 12月11日(火)～平成25年2月24日(日)  
会場 松本民芸館  
観覧料 大人300円、中学生以下および70歳以上の松本市民無料  
問合せ 松本民芸館へ

歴史の里から ☎0263-47-4515

高機で裂き織り体験

昔ながらのはた織り機で、気軽に「裂き織り」を体験してみよう。

日時 11月10日(土)、12月9日(日)  
午前10時～正午、午後1時～3時  
参加料 1,000円  
(布一枚分、18cm×22cmの布を織ります)  
定員 各6名  
持ち物 裂き織りにしてみたい布  
(お持ちでしたら)  
申込み 歴史の里へ

糸染め体験

歴史の里で作られた絹糸を使い、草木染めを体験してみよう。

日時 11月7日(水)  
午後1時～4時  
参加料 2,000円  
定員 8名  
持ち物 エプロン、ゴム手袋、  
ビニール袋(持ち帰り用)  
申込み 歴史の里へ

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日時 11月11日(日)  
午前10時～正午  
会場 馬場家住宅  
担当 おしゃれ茶道の会(裏千家)  
参加料 通常観覧料が必要  
申込み 不要

布ぞうり作り体験教室

日時 11月24日(土)  
午前10時～午後3時  
会場 馬場家住宅  
参加料 1,800円  
定員 10名  
申込み 21日(水)までに馬場家住宅へ

はた織り体験教室(裂布・ボロ織り)

日時 11月24日(土)  
[午前のクラス]午前10時～正午  
[午後のクラス]午後1時～3時  
会場 馬場家住宅  
講師 染織の会  
参加料 1,000円  
定員 各5名  
申込み 21日(水)までに馬場家住宅へ

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第111回 サロンあがたの森  
「日韓両国の面白い文化・変な文化」

日時 11月10日(土)  
午後1時30分～4時  
会場 あがたの森文化会館 1-5教室  
講師 延 鎮淑氏  
(信州大学全学教育機構外国語准教授)  
参加料 無料(申込み不要)  
問合せ 旧制高等学校記念館へ

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂生家将棋教室

日時 11月17日(土)  
午前の部/午前10時～正午(小中学生)  
午後の部/午後1時～4時  
(大人、小中学生の大会)  
会場 窪田空穂生家  
講師 プロ棋士、日本将棋連盟会員  
対象 小中学生、大人  
参加料 無料  
申込み 当日までに窪田空穂記念館へ

空穂生家百人一首教室

日時 11月24日(土)、12月15日(土)、22日(土)  
平成25年1月12日(土)  
午前10時～正午  
会場 窪田空穂生家  
内容 ちらし取り、競技かるたなど  
対象 小中学生  
参加料 無料  
申込み 当日までに窪田空穂記念館へ

時計博物館から ☎0263-36-0969

蓄音器で聴くSPレコードコンサート

日時 11月3日(土・祝)  
午後2時～3時  
会場 時計博物館3階企画展示室  
参加料 無料(常設展観覧は有料)  
問合せ 時計博物館へ

体験講座「機械時計をつくろう!」

日時 11月11日(日)  
午後1時30分～2時30分  
会場 時計博物館 3階企画展示室  
対象 小学校高学年の親子、または中学生  
参加料 1,500円(材料費)  
定員 先着15組  
持ち物 プラスドライバー  
申込み 時計博物館へ

あとがき

9月15日に始まった馬場家住宅の開館15周年記念事業も、先日、無事に終了を迎えることができました。このような節目に関わることができ、うれしく思うとともに、準備段階から支えていただいたすべての皆さんに感謝します。(H.K)

あなたと博物館 No.183

発行年月日/平成24年11月1日 編集・発行/松本市立博物館  
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com  
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社